



2014.9.14・阪神・2勝目のウイナーズサークル 須貝調教師と

## 小島友実の あの馬の STORY



### シユテルングランツ

「この数戦は左回りのダートに照準を合わせ出走して、なかなかゴールングランツ。4歳の春から夏頃にかけてはあまり良績が出ない時期もありました。昨年10月の京都戦からは「ハーベスター」に結果を出してきました。

今回この馬を管理する須貝尚介 調教師に色々と伺いました。

「この馬を最初に見た時、ステイヤー ルド産駒のわざにはびっくりしました。タイプだなと思いました。ただ骨溜が出ていたので牧場でじっくり調整してもらひ、3歳の年明けに「デビ」、「アーチ」ました。ステイヤー産駒で長い所が良いかなと思つたので、2000メートルビバー ました。がんばりましたが、このレース後に右後肢蹄骨を骨折して、金治3カ月の診断を受けたので放牧へ出たんです。」

「戦田からはじめてダート戦を走つて、シユテルングランツ。それには須貝師のこんな見立てがあつました。

「実際に「デビ」、「アーチ」戦での走りを見たら、短距離のダートで活躍した母のトゥースペシャルの影響が強そうだと感じました。だからダートへ向かつたんです。3戦目で勝ち上がり、これまで500万クフフでも2戦目で卒業。次走の1000万クラスも連勝してくれました。能力が高い馬だと思いますね。」

しかし準OPへ上がつたのは、なかなか結果の出ない日々が続きました。

「元々、体质が弱い所があった馬。ダメな放牧を挟みながら調整しておれましたが、昨年6月に函館競馬場の津軽海峡特別で10着に負けた時は体調があり敗くなかったかもしませんね。それで社台ファームさんへ放牧へ出しで、ケアしてもらつたんですね。」

「このレースで「シユテルングランツ」放牧を挟み、昨年秋に復帰したシユテルングランツは冒頭でも書いたように、堅実な走りを見せたのではないかと思います。」

「昨年秋に帰厩してからは状態が良くなつきました。レースで集中力を欠いたり途中で止めてまわる所があつたので、昨年10月の京都戦からはブリンカーを着用しています。以前より最後まで集中して走れる姿勢が思えてきています。精神面の成長も伺えますね。特に

11月29日の東京競馬場の「サンクン賞」は惜しかった。勝ちに行く正攻法のレースをしたもの、大外から来た馬に差されてしましましたね。ただ元々、このクフフを勝つといふ馬。再度勝てるべく立てる内容でした。」

「このレースの後は再び放牧を挟み、今年1月4日にしっかりと帰厩。次走に向けての調整が行われています。」

「元々、条件が合つ東京のダート1600メートルで復帰予定でしたが、状態が良いので、1月30日の中央競馬場の伊良湖特別へ向かう予定です。このレースでも十分、勝ち負けにならぬと思いま

すよ。少し結果と状態次第では、中一週で東京へ向かう事も考えております。馬の状態が良い時に走らせたいだけですね。その辺は十分、観察しながらやつけてきたのです。」

お話を伺つて、昨年秋からは馬の状態も良く、充実してきている事が伝わってきました。今回のトレーニング材時はちょっと放牧中に「シユテルングランツ」には会えなかつたので、普段の様子を須貝調教師に伺いました。

「パドックではねやかつく仕草を見せて扱いやかづき馬です。ステイヤー、産駒は危険な行動をする馬が多いけど、この馬はそういう事もしないかと思います。ただ脚しなるといつとある所があるかのスイッチを入れさせないよ（笑）。この馬はもうこうした事もしないからね。ただ脚しなるといつとある所があるかのスイッチを入れさせないよ（笑）。」

今後の目標についても伺いました。

「休養を挟みながら、今良い感じであります。明け5歳でまだまだ先があるし、良くなつそれいな馬。なんとかオーブン馬にしてあげたいですね。強くなつくれる事を願いながら、厩舎も諦めずに頑張つてきまつて、余眞の皆さんにも見付けて下さる」

「牧場と厩舎のクワを受けながら、戦じた力増していける印象の「コティングランツ」。今後の更なる充実が楽しみですね。」

#### profile

グリーンチャンネル「トラックマンTV」(毎週金曜19:00~20:30)、ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」ほか競馬ファンにはお馴染みの顔。平日は地方競馬、週末は中央競馬、そしてプライベートでも競馬三昧の日々を送る。本業のアナウンスのほかにも、競馬ブックのコラム「小島友実の好奇心keiba それいけ現場」の連載など活躍の場を広げている。